

貞光園芸

全国でトップクラスの品質を誇るトルコギキョウ栽培。
品質を維持しながら大量生産を実現する大規模経営の秘訣とは…

市民の方に地場産業を知ってもらおうと、北九州市立大学の学生が市内事業者取材しました。今回は、上新入にある貞光園芸を紹介します。



ビニールハウス一面のトルコギキョウ



ブライダル向けに出荷されるトルコギキョウ



トルコギキョウの栽培について説明を受ける学生たち

貞光園芸の歩み

平成16年 先代が県の事業を活用したことを契機に農地を集約し、大規模経営に転換。イチゴとトルコギキョウの複合栽培を開始。

平成19年 貞光孝宏さんが代表に就任。

平成28年 福岡県花き品評会で福岡県知事賞を受賞。

平成30年 同品評会で2回目の福岡県知事賞を受賞。



インタビューー

城間 貴一さん
(3年生)

JA直轄

中村 元彦さん

福岡県

飯塚普及指導センター

佐伯 一直さん

トップインタビュー

Q1

事業内容について教えてください。

イチゴを主体に、トルコギキョウ、メロン、水稻等の農産物を作っています。ほうれん草等の野菜を栽培することもあります。基本的にはこの4種類です。中でもトルコギキョウの品質は、福岡県の花き品評会で過去2回、福岡県知事賞を受賞しており、全国でもトップクラスと自負しています。品種も多く、18種類のトルコギキョウを栽培しています。



15年前と比べると、農地の集約により、栽培面積が2倍に拡大し、従前の家族経営では人手が足りないため、現在は雇用を積極的に行っています。

また、作業通路の整備等を行い、従業員が働きやすい環境づくりに努めることで生産性を向上させ、高品質と大量生産の両立を兼ね備えた農業経営を実現しました。

農業事業者の支援者2人に 貞光園芸について聞きました。

<佐伯さん>

貞光園芸が所属している直方地区トルコギキョウ出荷協議会は、イチゴとトルコギキョウの組み合わせで作っている人が多いです。しかし県内では、この2つを組み合わせで作っているところは他にありません。両品目とも面積当たりの売り上げが高いのですが、その分手間が掛かり、両立させるには高い技術力が必要です。そんな中、品質、生産量、共に県内トップクラスを維持しています。

出荷先を1つに絞ることで、変動を抑えつつ、品質の向上で県内でも有数の高単価を実現。出荷先を絞るとするのは、とても参考になる経営戦略の一つだと思います。また、県が開催していた「イチゴ塾」というイチゴの農業経営を学ぶセミナーに講師として参加していただくなど、若い農業経営者のお手本となる優秀な経営者だと思います。

<中村さん>

貞光園芸は、県内でも栽培面積が広く、雇用を積極的に行うことで、大規模な農業経営を実現しています。近年の気候変化で、毎年、1つの品目について同じ生産量を維持することができないこともあります。しかし、貞光園芸は他の品目で補うことで経営を維持するなど、県内でもトップクラスの農業経営者だと思います。

JA直鞍として、作った農作物をしっかり売り切れる環境の整備等により、支援していきたいと思っています。



トップインタビュー

Q2 農業経営の強みは何ですか？

一つ目は農作物の品質です。例えば、トルコギキョウは1本当たりの生産面積を増やすことで、生産性より品質を重視しています。また「農業の血液は水である」という考えから、農業用水を最も重要視し、地下100メートルから汲み上げた綺麗な地下水を使用しています。

二つ目は販売業者との関係性です。トルコギキョウは、長年、大阪の榎なにわ花市場とのみ取引をしてきました。先方から栽培が難しい品種を求められることもありましたが、高品質なものを納めることに努め、先方もそれに応えて、売り切ってくれるなど、良好な関係を築いています。

トップインタビュー

Q3 農業経営を行う上で課題や苦労はありますか？

近年、気候の変化により、栽培の計画を立てることが難しくなっています。園芸施設をいかに、気候変化の影響を受けないように調整していますが、その管理には技術が必要です。病気の予防やさらなる品質向上のため、施設内の温度や二酸化炭素濃度等の状態を管理できるシステムの導入等も検討し、どのような気候変化が起きても、高品質を維持できることを目指しています。

トップインタビュー

Q4 若者へのメッセージをお願いします。

あいさつと約束を守ることを大切にしてほしいです。自分から積極的にコミュニケーションを取り、お互いの信頼を深めることで仲間をつくることができ、実現できることが広がっていくと思います。



学生レポート 取材を終えて

トルコギキョウの農園を見学するのは初めてだったので、大変貴重な経験になりました。貞光さんの「人が欲しいと思うもの」を作るという仕事に対する姿勢にとっても感銘を受け、私も将来はそんな働き方をしたいと思いました。(杉山 拓)

私は経営学を専攻しているので、実際に農園を経営されている様子を見ることができ、とても勉強になりました。また、貞光さん自身がとても気さくな方で、とても楽しそうな職場の雰囲気が伝わりました。私もこんな職場で働きたいと感じました。(城間 貴一)

今回のインタビューを通して、貞光園芸のイチゴ、トルコギキョウの品質に対するこだわりを強く感じることができました。知識はもちろん、挑戦すること、その経験から学ぶことの大切さを知ることができました。直方市から大きな市場へ挑戦されている貞光園芸さんへのインタビューに参加でき、大変光栄でした。(吉村 健吾)

問い合わせ

インタビュー先の連絡先

- 事業者名…貞光園芸
- 所在地…直方市大字上新入2818 ●TEL…24-8115

記事についての連絡先

- 問い合わせ…商工観光課 工業振興係 ●TEL…29-3155
- FAX…29-3156 ●メールアドレス…n-kogyo@city.nogata.fukuoka.jp



インタビューー
吉村 健吾さん
(4年生)

インタビューー
杉山 拓さん
(3年生)

貞光園芸 代表
貞光 孝宏さん